

大野岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和5年11月1日発行 文責 校長 中尾 聡彦

佐賀県文学賞（川柳の部）の審査結果

文化芸術の秋と言いますが、非常にうれしい便りが届きました。

本校が、岩永孝雄様(原屋敷)、岩永憲一良様(南波多町出身)、松本昌倫様(原屋敷)のお力添えを得て、長年取り組んできている「川柳」ですが、佐賀県文学賞において驚くほどの児童生徒が入賞を果たしました。川柳教室に参加してみると、児童生徒のみずみずしい感性に驚かされます。また、講師の先生のあたたかい言葉かけと優しい目に児童生徒もしっかり応えています。

今後も、南波多郷学館の伝統的な教育活動として大事にしていきたいと思っています。

作品は、コミュニティ・スクールだよりでご紹介します。

<審査結果>

【小学生の部】1席、2席、3席、秀作(3名)、佳作(5名)

【中学生の部】1席、秀作(2名)、佳作(4名)

旧南波多中学校から川柳陶板を移設しました

夏休みに、現在、児童クラブとして活用されている旧南波多中学校に、子どもたちの様子を見に行きました。その時に、「そういえば、教頭としてお世話になった頃(H23～H26年度)、中学校の校長室横に川柳陶板が掲示してあったけど・・・」と思い、その場所を確認してみるとそのまま保存されていました。この川柳陶板は、川柳教室が始まった頃に、今もご指導いただいている岩永孝雄さんと樋の谷窯の故吉野靖義さんによって作成されたものです。平成22年度に在籍していた生徒一人一人の川柳が書かれた唐津焼は味わい深く、そのままにしておくのは忍びないと思い、現校舎の校長室横に移設しました。移設に際しましては、古賀建築(原屋敷)さんのご厚意で実現しました。

多くの子どもたちが足を止め、先輩たちの川柳にふれ、自分たちの生活と重ねている姿を目にします。

当時の中学生や保護者の方、地域の方々、どうぞ、来校いただきご覧ください。



小学校陸上大会で躍動

10月7日（土）に今年度で最後となる伊万里市小学校陸上大会が開催されました。半世紀を超える長い歴史を刻んできた陸上大会が幕を閉じました。

開会式では、本校6年の2人が「笑顔で楽しく、思い出になるような大会にします！」と力強く宣誓をしてくれました。種目は100メートル、持久走（男子1000m、

女子800m）、学校対抗の400メートルリレーが行われました。選手は、スタンドからの大きな声援を受けながら、自分の力を精一杯発揮していました。

国見台陸上競技場に立った時の緊張感と感動は出場した選手にしか得ることはできません。とても素晴らしい経験をしたと思います。



感動の文化発表会

10月27日（金）に、文化発表会が開催されました。各学年、各ステージでは、この日に向けて準備を進めてきました。コロナ禍の間は、入場者を制限していましたが、今年度からは制限も解除し、たくさんの保護者、地域の方々にもご来校いただきました。子どもたちは、多くの方々に見守られながら、合唱や劇、朗読等を披露しました。1年生から9年生までの発表は義務教育学校ならではの取り組みです。ステージ1のかわいい中にも精いっぱい表現する姿、5・6年生のステージ1から成長した内容と態度、そして7年生以上の自分たちで創り上げた演劇や合唱など、どの学年の姿も心に響きました。特に9年生の修学旅行先の知覧で学んだ特攻隊に係る物語「守りたかったもの」は心に迫るものがあり、感動しました。また、昼休みのパフォーマンス発表は、ダンスや歌、教職員による演奏などバラエティーに富み、未成年の主張では子どもたちの本音が飛び出し爆笑の渦でした。まさに、文化一色の日でした。たくさんの保護者や地域の方々の参観と応援に感謝いたします。ありがとうございました。

